

スタディシート27種(B5判)・ワークシート1種(B4判二つ折=B5判サイズ)を用意しています。ここでは、スタディシート2種・ワークシート1種を掲載しておりますので、参考にしてください。

ワークシート・よろいかぶとを身につける(表)(B4判二つ折=B5判サイズ)



ワークシート・よろいかぶとを身につける(裏)(B5判サイズ)

使い方:

伊達政宗所用具足のそれぞれの部品を切りぬき、実際に身につける順番にそって、人の絵の上にはりかざっていきます。はりつける位置は点線でご確認ください。

伊達政宗のよろいかぶと(黒漆五枚胴具足):

- ①のすねあてを両足につける。
- ②のはいだてを腰につける。このときすねあての上の方はかくれる。
- ③のこてを両うでにつける。
- ④のどうをくさずりといっしょにつける。このときははいだてとこての一部はかくれる。
- ⑤のわきざし、⑥のなちをつける。わきざしはどこのこしひもにさしこむので、点線の部分はどりのそいでひもが見えるようになる。なちのひもをどこのこしひもに結びつけるような感じになる。
- ⑦のほあてを顔につける。目や口がうまく見えるようになる。(口はきりぬかずにあてで描いてもよい。)
- ⑧のかぶとをつける。かぶとのひもはほあてのあごひげにかくれる部分があるので、点線のところはどりのそいでする。
- ⑨のまえなてをかぶとの前につけ、⑩のさいはいを右手に持たせる。さいはいの柄の部分は一歩手にかくれるので、点線のところはどりのそいでする。これで完成、いざ出陣!!

黒い漆塗りの胴と金色の細い月の前立が印象的なよろいかぶとです。胴の部分が5枚の鉄板でつくられているので五枚胴とよびます。政宗が好んで用いたこの形式は、作者が鎌倉幕府の下の人であったことちなんで、幕の下胴ともいいます。五枚胴は、代々の仙台藩主たちだけでなく家臣たちにも用いられたので、仙台胴ともよばれました。鉄砲が使われた時代にならわしい実践的なよろいかぶとです。全体で約20kgの重さがあり、さらに刀をつけ背中を旗を立てたりすると、かなりの重さになります。なお具足とは、籠手や腰当てをそなえたよろいかぶとという意味です。

